

防災警察常任委員会委員会調査報告書

令和5年8月8日（火）に、海上自衛隊横須賀地方総監部において、「災害対策及び消防に関する事項について」調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 加藤 元 弥 様

防災警察常任委員会委員長 おざわ 良 央

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 海上自衛隊横須賀地方総監部
- (2) 出席委員 おぞわ良央委員長、京島けいこ副委員長、永田磨梨奈、芥川薫、梅沢裕之、土井りゅうすけ、青山圭一、たきた孝徳、平野みぎわ、柳瀬吉助の各委員
- (3) 随行者 清水主事(議会局議事課)、金子副主幹(くらし安全防災局総務室)、
堅山課長補佐(警察本部総務部総務課)
- (4) 調査日 令和5年8月8日(火)
- (5) 行程 県庁 → 海上自衛隊横須賀地方総監部 → 田浦宿舎
→ 掃海艇ちちじま → 県庁

2 海上自衛隊横須賀地方総監部

(1) 調査目的

海上自衛隊は、災害発生時において、地方公共団体等と連携しながら被災者や遭難した船舶・航空機の捜索・救助、水防、医療、防疫、給水、人員や物資の輸送といった様々な災害派遣活動を行っている。

海上自衛隊横須賀地方隊は、北は岩手県、西は三重県に至る太平洋沿岸一帯を警備担当区域としており、大規模災害発生時には、派遣要請を受け、様々な救援活動を行うこととなっている。

南海トラフ地震や首都直下型地震等、大規模災害の発生リスクが高まる中、海上自衛隊横須賀地方総監部における災害対応等について調査することにより、災害対策に関する今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 海上自衛隊横須賀地方総監部出席者

横須賀地方総監、横須賀地方総監部幕僚長、防衛部長、管理部長、防衛部3室長、総務課長、掃海艇ちちじま艇長ほか

(3) 委員長挨拶



(4) 海上自衛隊横須賀地方総監部(横須賀地方総監)挨拶及び懇談

(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

- ア 海上自衛隊の概要・組織
- イ 海上自衛隊の災害救援活動
- ウ 横須賀地方隊の担当警備区
- エ 神奈川県における活動
- オ 今後の取組

(6) 質疑応答

質 疑 災害時における、地方行政との連携に関する課題を伺いたい。

応 答 陸上自衛隊は、各市町村にどこの部隊が行くか決まっているが、海上自衛隊は、被害の内容に応じ、どこが行くか必要に応じて決めている。何が必要かリアルタイムで分かれば対応しやすい。また、陸上自衛隊からの情報も得られれば対応がしやすい。

神奈川県とも、防災会議に参加するなど日頃から連携をしている。常に顔の見える関係性ができており、今後もよりよい関係性をつくっていききたい。

質 疑 防災会議ではどういった意見が出たのか。

応 答 災害時には、なるべく早く船舶を派遣してほしいとの意見があった。

質 疑 (今回見学を行う) 田浦宿舎にクーラーは付いているのか。

応 答 クーラーは自分で付ける。また、換気扇も自分で付けるようになっており、網戸もない。

質 疑 家賃はいくらか。

応 答 緊急参集要員が入っており、無料である。

質 疑 先ほどの概要説明で、海上自衛隊は特に人気がないのだと聞いて驚いた。若者たちが今後を担っていく中では、宿舎をはじめとした隊員のための環境整備をしないといけないと思う。また、東日本大震災を経て、多くの人が、自衛隊なくしては生きられないと改めて知った。親戚に自衛官がいるが、保安上、今いる場所は家族にも言えない、家族はただただ帰ってくるのを待つしかないと聞いた。そこも若者にとってネックになっているのではないか。

応 答 言ってはいけないということではなく、家族に何かあるとき等はしっかり連絡を取ることができる。

防衛予算の構造的に、何かを増やすと何かを削らなければいけないシステムの中で、これまで船などの装備品を優先して整備してきたこともあり、隊舎については、我慢が続いていた。人員獲得競争が激しくなることが想定される中、予算もついてきているので、改善をしていきたい。

質 疑 故障したヘリからパーツを取り出して使用したという話を聞いたことがある。

応 答 航空機は特に、そのようなことを行うことがある。船はあまりやらないが、動かなくなった船から持ってくることはある。米軍との連携が強固になるにつれ、輸入品が多くなり、そうすると手に入るまでに2～3年かかる状況もある。つまり、投資した効果が見えるまで時間がかかり、効果がないとみなされ予算が削られる可能性もある。

質 疑 自衛官の自殺者が増えているが、メンタルケア体制はどのようになっているのか。

応 答 自殺者が多いということは承知している。部隊にメンタルヘルスを専門とする担当者がいるほか、カウンセラーや臨床心理士など体制を充実させている。精神的に弱いと思って相談をちゅうちょする人もいるが、ちゅうちょするようなことではないと伝え、心の悩みを相談する機会を確保しないといけないと思っている。自殺者数が減らないので、相談員の活用をもっとすべきだと思う。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



(7) 田浦宿舎見学

(8) 掃海艇ちちしま見学



(9) 調査結果

本県では、災害時の広域応援体制の強化を進めており、大規模災害時における国、他都道府県、市町村、防災関係機関等との連携体制の充実を図っている。特に、大規模災害発生時の初動対応における救出救助を主体とした実践的な訓練であるビッグレスキューかながわでは、海上自衛隊横須賀地方総監部とも連携し、地域防災力の向上を図っている。

今回視察した海上自衛隊は、大規模災害発生時において様々な役割を担っており、県からの派遣要請を受け、発災地域の被害状況等の情報収集、要救助者や行方不明者の捜索・救助、物資等の輸送、給食、給水、入浴等の生活支援など、多機能で幅広い支援を行っているとのことであった。

なお、こうした支援を行う際の、海上自衛隊の船の最大の特徴は、燃料や必要資機材等を満載にして行けば被災地域のインフラに依存しないことであり、また、港の大きさや港の被災等で入港できなくても、沖合で司令塔になれることである。また、今回、見学を行った「掃海艇」は、大きな護衛艦が近づけない地域では、小回りを利かせて救援活動を行うこともできるとのことであった。

また、海上自衛隊には五つの地方隊があり、横須賀地方隊は、岩手県から三重県までの沿岸を警備区域としている。当該区域は、重要港湾、米軍基地、大規模地震が予想される地域、離島などを含む非常に重要な区域であり、こうした地域を守るためには、国や自治体、関係機関との連携が特に重要で、日頃から訓練や顔の見える関係性が欠かせないことが改めて認識できた。

令和4年度は県内の18の防災訓練に参加しているが、引き続き、今後も、自治体及び関係機関との防災訓練や会議への参加、海岸線を有する自治体との防災連絡会議の開催、災害派遣活動が予想される地域の港湾状況の確認を継続して行い、「From the sea——海から何ができるのか」の精神で、連携体制の維持・強化に取り組んでいくとのことであった。

このように、発災時には重要な役割を担う一方で、人員の充足は芳しくなく、入隊希望者が少ないという課題も質疑を通して把握することができた。これについては、宿舎における生活環境の改善を図ることなどで解決に向けて取り組んでいきたいとのことであった。

以上のように、今回の調査を通じて、海上自衛隊の災害救援活動について理解を深めるとともに、災害時の本県をはじめとする自治体と連携した広域応援体制の重要性を改めて認識することができ、本県における災害対策に関する委員会審査を行う上で参考に資するものとなった。